

こんにちは！日野農業改良普及所です。

今年も農業分野のホットな話題をお届けします。

今回は、2020年東京オリンピック・パラリンピックの食材調達要件に認証 GAP の取得が採用されたことで、最近注目を浴びている「GAP」と、今年9月に開催された全国和牛能力共進会を紹介します。

○GAPについて、ご存じですか？

GAP (Good Agricultural Practice) は、「良い農業の実践」と訳され、農産物の安全性確保や環境にやさしい農業を目指す取組を指します。具体的には、農業生産における様々な危険(リスク)を事前に点検・分析し、作業工程ごとにチェック項目を定め、それに沿った作業の適切な実施、記録、点検、評価(PDCA サイクル)を繰り返しながら、生産工程の管理や改善を行うものです。GAP は特別なことではなく、普段から農業者が安心安全のために当然取り組むべきこと(生産環境、作物や生産物、労働等の適正管理)の確認と改善の実践に過ぎません。GAP に取り組むことで、「食品の安全性向上」、「環境の保全」、「労働安全の確保」、「生産コストの低減」を図ることができます。

〈考えられるリスク〉

食品安全(食べる人の安全)



異物混入、残留農薬、食中毒等

環境保全(自然環境の保全)



水質・土壌汚染、農薬飛散被害等

労働安全(作る人の安全)



農作業事故等

○「GAP をする」と「GAP 認証をとる」

GAP の取組には、「GAP 認証をとる」と「GAP をする」の2つがあります。

「GAP 認証をとる」は、第三者機関の審査により GAP 認証を得ることです。例えば、「JGAP」や「グローバル GAP」等があります。この取得により、その農場が「良い農業」を行っていることが客観的に担保され、流通段階における新しい販路の開拓や先進的農場としての PR 効果が期待されます。

一方、「GAP をする」は、よりよい農場を目指すために農業者が自主的に取り組むものであり、認証取得は関係ありません。チェック項目を定める際の基準として、「GAP 共通基盤ガイドライン(農林水産省)」がインターネット上で無料公開されています。これを参考にして農場を自己チェックして見直すだけでも、リスク回避、労働環境の改善やムダを省くことができます。

より良い農場の実現を目指して、まずは実際に自己農場点検と改善(GAP をする)から始めてみませんか。

第11回全国和牛能力共進会宮城大会、鳥取県が好成績をあげました。

とき 平成29年9月7日～11日



第2区 西村さんと「さつき2」



第5区 越峠さんと「ゆりさかえ」

・鳥取県チーム全体の総合順位は第5位と近年では最高順位でした。更に、第7区総合評価群の種牛群は5位、肉牛群は1位で総合2位の快挙を達成しました。

・日野郡出場牛も大活躍です

日野郡からも2頭が出場し好成績をあげました。種牛の部に、第2区（若雌の2）に日南町の西村利史氏の「さつき2」が出場し、優等賞9席の好成績をあげました。更に、第5区（繁殖雌牛群）に江府町の越峠嘉道氏の「ゆりさかえ」が出場し、優等賞8席と特別賞（乳徴賞）を獲得しました。



普及所長 田中

普及所のメンバーです。
普及所は皆さんの新しい取り組みを共に考え、応援します。
困ったことがあれば、いつでも気軽にご連絡ください。



作物担当 長戸



作物担当 加賀田



畜産担当 米村



6次産業化担当 岡田



野菜担当 小谷



野菜担当 濱上



花卉担当 福本（広域）



果樹担当 杉嶋（広域）

（お問合せ）日野農業改良普及所 電話0859-72-2025